（様式２）

平成２９年度全国・東京都・荒川区学力調査に関する結果分析シート

学校名　荒川区立第七中学校

調査名	分　析	実施結果（正答率）	
		区	自　校
区学力調査　全学年	第１学年 　本校入学当初における、荒川区学力調査４教科（国・社・数(算)・理）は毎年、数学の正答率が本区の平均を下回っている。本年度は例年以上に差が大きく２．８ポイント下回った。観点項目全てにおいて下回った。特に基礎的な内容が不足している。合計正答率は０．８ポイント下回った。 第２学年 　教科別の正答率は全ての教科において、本区の平均正答率を上回った。観点別評価項目は６項目で平均を下回った。合計正答率は４．８ポイント上回った。 第３学年 　社会の平均正答率は本区の平均を下回ったが、４教科は本区平均を上回り、合計正答率は１０．７ポイント上回った。 　i-check の結果１年生は１日の家庭学習時間は３０分以下の生徒が４７％、２年生は３０％であることが分かった。基礎的な内容、家庭学習の充実を図ることで学力の向上・定着を図ることができると分析している。 　入学時本区平均点を下回っている教科が向上傾向にあるのは、学校パワーアップ事業を活用して、大学教授級の講師を招き研究授業を全教科で実施したことで指導力の向上ができたと考えている。 　来年度においても、指導力の向上を目指し、さらに家庭学習に取り組む姿勢の育成できるように研修を深めていきたい。	１年 国 73.4 社 53.9 数 66.5 理 55.2 英 58.2 ２年 国 67.5 社 46.3 数 55.6 理 47.4 英 61.2 ３年 国 70.3 社 48.2 数 58.1 理 54.6 英 64.9	１年 国 74.1 社 54.0 数 63.7 理 54.5 英 60.1 ２年 国 68.1 社 46.6 数 57 理 48.4 英 62.7 ３年 国 73.5 社 47.2 数 59.5 理 58.8 英 67.8

		都	自　校
都学力調査　中２	理科を除いて、４教科は都の正答率を下回った。 各教科の最も多かった層は、国語はＢ層で２９％、社会はＣ層で２９％、数学はＣ層で２８％、理科はＡ層で２８％、英語はＤ層が３１％であった。 国語と理科はＡとＢ層の合計が５０％を越えた。 社会と数学はＣ層を、国語・理科・英語はＤ層の引き上げが課題である。Ｃ層の引き上げは関心意欲を高める、家庭学習の指導をすること、Ｄ層については放課後学習を行い、個別の対応が必要である。 あらかわ寺子屋事業を活用して、Ｃ・Ｄ層の引き上げのため、あらかわ寺子屋の回数や指導者を増加させ、個別指導の機会を増やすことで学力の向上を目指す。	２年 国語　72.7 社会　56.5 数学　53.3 理科　56.5 英語　62.9	２年 国語　71.3 社会　53.8 算数　47.5 理科　56.8 英語　58.9
全国学力調査　中３	数学Ａは全国の正答率を上回ったが、残りの３項目については下回った結果になった。 国語・数学ともにＢ問題が全国の正答率から離れていることから活用に課題が多いと分析できる。 ３年生が受検で毎年集団が変わり、昨年度は全国の平均を下回ったが、Ｂ問題の正答率が高く、ほぼ全国の正答率と同じで、Ａ問題の差が大きい。 数学は３名で習熟度別少人数指導をしている。国語は２名で３学年を担当していることから、指導の差からの結果と考えにくく、集団の特徴ととられている。 今後、集団の特徴を授業、考査、調査を通じて現状を把握して指導を進める。	全　国 ３年 国語Ａ　77.4 国語Ｂ　72.2 数学Ａ　64.6 数学Ｂ　48.1	自　校 ３年 国語Ａ　74 国語Ｂ　68 数学Ａ　65 数学Ｂ　47